

18年度 見学研修会

昨年の青森に続いて、北海道を離れ日光、東京方面への見学研修会を企画しました。参加者の皆さんに喜んでもらえる見学会になるか不安な船出でしたが結果十六名の参加で、各自車乗り合いで千歳空港に集合、JRにて南千歳駅へ一駅移動、夜八時寒い中ホームにて北斗星4号を待ち乗り込んだ。皆さん明日の朝食、お酒、おつまみを片手に、四人一室のB寝台を四室確保。



明朝の十時宇都宮到着、バスにて日光への道中例幣使街道の三百年を超える杉並木の道へ（1645年から始まった京都からの金の御幣を携え日光へ向かう勅旨の行列に思いを馳る）日光に入り田母沢御用邸へ。大正天皇（当時は皇太子）のご静養のため、明治32（1899）年に造

営された。建物は、赤坂離宮から移されたものを骨子として、江戸・明治・大正時代の建築が融合し、建築学的にも大変貴重なもので、これほど、大規模な（106室）木造建築は全国でも数少ない。会員皆さん昼食を忘れ見学を（流石に建築士集団）していました。

昼食後日光山内へ御願ひしていた案内人を先頭に先ずは日光山輪王寺へ、そして三代将軍家光侯が作った日光東照宮へ（工期が一年五ヶ月、総工費今のお金で400億、延べ454万人が工事に携わった）表門（仁王門）から、入って直ぐに、見猿、聞か猿、言猿の有る神厩舎へ（厩の周りの欄間の木彫り）石段を登り陽明門へ其の奥が拝殿、本殿へと続く、その後眠り猫の欄間を潜り奥殿へ（あの石段がきつかった）戻って鳴竜の有る釈迦堂で鳴竜の音を聞く。

これで時間が無くなり次の見学場所JR日光駅へ移動。旧帝国ホテルで有名な、フランク・ロイド・ライトの設計といわれている。明治のロマネスクの香りを残す名建築で知られている。事前に申し込んでいた駅長室の隣にある貴賓室へ、当時のままに保存されている。

広さは約40平方メートル。天井にはシャンデリア、床には

豪華なじゅうたんが敷きつめられており、白い大理石の暖炉が威厳を漂わせている。暖炉の上の大きな鏡は姿を見るためのものではなく、反射を利用して陽光を得るためのものだという。貴賓室見学後鬼怒川温泉に有る宿泊ホテルへ向かう、温泉へ入浴後懇親会に、食べ、飲み、歌う。



翌日ノンビリと町の中を散策しながら東武線鬼怒川温泉駅へ列車に乗り込み浅草へ。雷門横の老舗天麩羅家「三定」で昼食後雷門の大提灯下で各自浅草寺周辺の散策へ。仲見世通りを沢山の観光客と（外国人も多い）一緒に浅草寺へ。本尊の聖観世音菩薩に手を合せ歴史と下町情緒を感じながら浅草広小路の名で東京っ子に親しまれた浅草雷門通り界限を散策後地下鉄乗り場に集合、地下鉄に乗り羽田空港へ・・・今年の見学会疲れましたが中身の濃い見学会でした。（企画を担当した担当者の自画自賛かも？）

（桐木企画委員長）



< 道本部の動き >

- ・須藤力弘会長ほか執行役員が再任されました。新任の副会長に二坂徹氏（旭川）
- ・第32回全道大会は9月2日札幌市教育文化会館で開催予定。
- ・平成19年9月帯広市において第50回全国大会開催の予定。
- ・専攻建築士認定申請の受付が5月1～31日の予定。